

大江広元 重臣・官僚。公家没落期最高の学者匡房の曾孫。草創期の鎌倉幕府のブレンとなり、発展に尽力した。

おおえのひろもと

・ ・ ・ ・ ・ 1148 =

生。父は参議藤原光能。母は式部権少輔大江維順の女。のちに式部少輔大江維光(母の兄弟)の養子となる。維光を実父とする説もある。大江匡房の曾孫(血が1/8になった時に優れた遺伝要素が現れた例)。

母が明経博士中原広季に再嫁し、長く中原姓を名乗る。大江氏は文章道、中原氏は明法道を家学とする家柄で、広元も学問・法律に通じていた。広元と同じく京下りの幕府官僚中原親能は兄にあたる。

保元の乱・ ・ 1156 = 8歳：
藤原基衡没・ 1157 = 9歳：

平治の乱・ ・ 1159 = 11歳：

源頼政内昇殿 1166 = 18歳：

清盛太政大臣 1167 = 19歳：

巖島神社・ ・ 1168 = 20歳：朝廷にあつては縫殿(ぬいの)允，

・ ・ ・ ・ ・ 1170 = 22歳：権少外記，
平徳子入内・ 1171 = 23歳：少外記などを歴任し，

・ ・ ・ ・ ・ 1173 = 25歳：従五位下，安芸権介となる。

法然浄土宗始 1175 = 27歳：

鹿ヶ谷事件・ 1177 = 29歳：

源氏一斉蜂起 1180 = 32歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1184 = 36歳：三善康信が鎌倉参着したのと前後して、*源頼朝に招かれ、鎌倉に赴いたと思われる。中原親能が頼朝と親しい関係にあったことが鎌倉下向の要因であろう。同年、公文所が開設されるとその別当となる。頼朝の信任が厚く、以後つねに幕府の中枢にあり、数多くの政策に関与し、幕府の基礎固めに尽力。

平氏滅亡・ ・ 1185 = 37歳：

*朝廷との政治的折衝に手腕をふるい、事あるごとに頼朝の命を受け上洛し、朝幕関係の安定化に努める。守護・地頭の設置を頼朝に進言したことも知られている。以後、因幡守・明法博士・左衛門大尉・兵庫頭・掃部頭・陸奥守を歴任し、正四位下まで昇る。

九条兼実摂政 1186 = 38歳：

諸国地頭停止問題解決のために上洛。

藤原秀衡没・ 1187 = 39歳：

上洛。これは帥中納言藤原経房を大納言に推挙するか否かの情勢判断を一任された上でのことであった。

奥州藤原滅亡 1189 = 41歳：

源頼朝上洛・ 1190 = 42歳：

頼朝上洛の際にはその二カ月前から京都で準備を進め、権大納言・右近衛大将に任ぜられた頼朝が、

宋西臨濟宗始 1191 = 43歳：

政所を開設するとその別当となり、政所の令には同じく京下りの官人藤原(二階堂)行政が任ぜられる。

鎌倉幕府始・ 1192 = 44歳：

後白河上皇重態の知らせが頼朝のもとにもたらされたときにも広元が派遣されている。

・ ・ ・ ・ ・ 1193 = 45歳：

このような活動は、頼朝が広元の力量を高く評価しているとともに、貴族出自で京都側の人々の信頼もかち得ていたことによるのであろう。頼朝は一方では地頭・御家人として武士の組織化を進めつつ、他方で広元・三善康信・藤原行政らの京下りの事務官僚を重用し、幕府組織とその支配力を強化していったのである。事務官僚の中心となっていたのが政所別当の広元であった。

源頼朝没・ ・ 1199 = 51歳：

*頼朝没後も、政子の信任を受け依然として將軍側近としての立場を保持し、二代將軍頼家のもとでの宿老13名による合議制に加わり、66名の御家人が連署して梶原景時を弾劾した事件でも、頼家への取次ぎを和田義盛・三浦義澄らに依頼されるなどしながら、北条氏を中心とする執権政治確立の基礎固めをして行く。

・ ・ ・ ・ ・ 1202 = 54歳：

執権政治始・ 1203 = 55歳：

比企氏の没落後、幕府内部における北条氏の地位が確かなものになると、時政との協力関係を強め、頼家の修善寺幽閉事件にも関係する。北条時政が執権として力を振るうと、いったん政所別当を退くが、
畠山重忠追討、時政出家、平賀朝雅追討などの事件を経て、義時と結びつき、幕府内部での自己の地位の保全するとともに、結果として義時の執権政治の成立に貢献することになる。

新古今集・ ・ 1205 = 57歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1209 = 61歳：

北条義時と共に、源実朝に、武芸を事とし朝廷を警固するが関東長久の基と諷諫する。

・ ・ ・ ・ ・ 1211 = 63歳：

北条頼朝確立 1213 = 65歳：

和田氏討滅の謀議に参画し、乱後、勲功の賞として武蔵国横山荘を与えられる。

・ ・ ・ ・ ・ 1216 = 68歳：

再び政所別当になると、大江姓に復歸。実朝が近衛人将への任官を望んだ際、北条義時と共にこれを諫めるが、受け入れられず、実朝との関係は親密とはいえない状態となっていたと思われる。

・ ・ ・ ・ ・ 1217 = 69歳：

眼病を患い、平癒したものの、「黒白を分たざる」有様で、出家して覺阿と称したが、

源実朝暗殺・ 1219 = 71歳：

実朝暗殺後も広元の地位に変わりはなく、

愚管抄・ ・ ・ 1220 = 72歳：

承久の乱・ ・ 1221 = 73歳：

軍評定で幕府首脳の意見が足柄・箱根を固め京都側の来攻を迎え撃つ守戦論にまとまりかけていたときに、先制攻撃を進言して成功に導き、

親鸞真宗始・ 1224 = 76歳：

伊賀氏の変まで相次ぐ事件の処理にあたり、

北条政子没・ 1225 = 77歳：

*執権泰時のもとで幕府政治も安定期を迎えた年、北条政子の後を追うように、没した。

子孫は寒河江・長井・那波・毛利・海東などの諸氏に分れ、全国に広がり発展した。